

南足柄市立南足柄中学校

研究テーマ：他者と交わり、自分らしく学び続ける力の育成
～ウェルビーイングの向上をめざした授業デザイン～

1 実践の目的

昨年度までの研究テーマである「思考力、判断力、表現力等が高まる授業の工夫」における研究の成果を生かすとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による主体的・対話的で深い学びとなる学習を実現する授業改善を行い、本校の課題解決に向けて取り組むことが本実践の目的である。また、市研究テーマである生徒の「学びに向かう力」の醸成をめざした授業改善を行い、確かな学力の定着を図ることとした。

2 実践の内容

(1) 授業力向上

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」

の一体的な充実による授業改善

技術科の授業では、生徒が自分と他の生徒のプログラムを比較検討しながら、目標達成のために活動する過程の中で多くの協働学習を行った。小グループやペアでの活動を積極的に取り入れ、単なる考えの交流だけでなく、友達の見方を参考に自分自身の考えを深めることができた。

② ICTを活用した授業実践

理科の授業では毎時間の導入や授業構成の中で、ICT機器を用いて事物を視覚化することにより、生徒が興味・関心を高め自ら学習に取り組み、主体的な態度を養うことができた。生物単元では、実際に見ることのできない体の内部やさまざまな動物の資料

や教材を、ICT機器を用いてスクリーンに映し出すことで、理解の一助となった。また、ICTツールの使用により自らの意見と他者の意見を視覚的に捉え、それらを共有し比較することが容易となり、自らの考えを再構築し、深い学びへとつなげることができた。



(技術科の取り組み) (理科の取り組み)

(2) 自らの言葉で考え、伝えることができる生徒の育成をめざした取組

全校集会では校長講話が複数回計画されており、生徒が校長講話を聴いた後、教室でその講話について感想や意見を書く「聴いて、考えて、伝える」活動を継続的に実施している。

講話後、生徒は教室に戻り、30分間程度、校長が作成したワークシートを前に、自分自身との対話を通し、自分の考えを構築していく。生徒が記入したワークシートは担任や学年主任、校長が読み、学校だよりを通じて、同学年や異学年の様々な意見に触れることができる。そのような過程の中で自分と他者の考えの違いを知ることによって価値観の違いや多様性、共生についても学ぶことができ、道徳教育もより促進されている。



(校長講話の様子：ハチドリのはたとしづく)

(3) 研究授業・研究協議（カンファレンス）の充実

全職員が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な取り組み推進チームとICT機器の活用推進チームに分かれて校内研究を進めている。一人年間1回校内研究テーマに関する研究授業を行い、その時間に授業がない職員は研究授業を参観する。同日放課後、研究授業に関するカンファレンスを、授業者、参観者、学力向上部員で行い、お互いの意見を交換する中で授業力向上に努めている。また、研究授業が行われたクラスは帰りの会で、一人一台端末を使い、研究授業に関するアンケートに回答し、その結果を、カンファレンスの話題として挙げ、授業改善につなげている。



(カンファレンスの様子)

3 実践の成果

各教科等の単元（題材）において、「指導の個別化」、「学習の個性化」及び「協働的な学び」について具体化した上で学習活動の充実を図った。

このことにより、本校で編成した教育課程を生かし、個別最適な学びと協働的な学

びの観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直して実践することができた。また、授業者が生徒の視点に立った授業改善や、AARサイクルによる「見通し、行動、振り返り」をととした授業デザイン、探究型学習における生徒同士の協働学習などを継続的に行った。その結果、生徒は自分の考えを他者との交流により、自分の変容や新たな学びに気づけるようになり、多くの場面で、自信をもって考えを周りに発信できるようになった。このことは、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査（4月・12月実施）においても、話し合い活動を通して、新たな考えを得ることができた生徒の増加からもうかがえる。さらに、理解が不十分な友だちに対して丁寧に説明し、支えあう様子も見られ、「貢献」や「共生」を大切にしている姿が多くみられるようになった。また、令和7年度の全国学力・学習状況調査結果では、国語・数学の正答率がともに全国平均を大きく上回るなど、学力の面でも実践の成果をあげた。

4 今後の展開

学習の基盤となる資質・能力を確実に育成し、多様な生徒一人ひとりの興味・関心に応じた学習意欲の向上や、生徒自身が追究したい内容をより深めることができるような学び方の探究が求められる。授業改善の視点では、質の高い、深い学びを実現し、単なる知識や技能の習得に留まらず、それが生きて働くように思考力等を育成することが必要である。また、教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることで深い学びが実現され、よりよく資質・能力を育成できる。そのような過程から、「見方・考え方」がより一層豊かになるような授業デザインが必要であると考えます。